

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 3290400393 | | |
| 法人名 | 株式会社 育川 | | |
| 事業所名 | グループホーム北陽(1階 北山) | | |
| 所在地 | 島根県出雲市武志町755番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年2月13日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年5月14日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=329

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | NPOLまね介護ネット | | |
| 所在地 | 島根県松江市白濁本町43番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年2月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木のぬくもりある空間にて気を楽しんで過ごしていただけるよう、また利用者様らしさを大切にしています。
 玄関には季節感を感じれる利用者様の作品を飾り、ご家族様、地域の方々をお迎えしております。
 近くの保育園の行事・誕生会に参加させていただいたり施設の行事にご招待させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人に認知症の理解を深めるため「認知症キャラバン」の講習に参加したり、運営推進会議で地域住民代表から各地域の行事の情報を貰い神社の夏祭りに参加したり、保育園児と行事を通じて交流する等、地域の人との関わりが深まっている。利用時にはごはん茶碗、汁椀、箸、両親の写真、使い慣れた筆筒等を持参して貰っている。週刊誌を購読する人、主食はおにぎりの人等、利用者のこれまでの習慣や思いを大事にし利用者主体のケアとなる様に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスの意義をふまえた理念を掲げ、管理者・職員はその理念を念頭に日々のサービス心がけながら取り組んでいる。 | 理念をスタッフルームや事務所に掲示し、職員は理念を書いた名札を身に着け、理念を意識して利用者主体のケアに取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 買物や理容など、積極的に地域の店を利用したり、行事に招待するなどの交流はある。今後も地域とのつながりを持てるように取り組んでいきたい。 | 行事を通しての交流や、ボランティアと絵手紙や習字を書いたり、小学生、高校生、保育園児と塗り絵をしたり散歩をする等している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 職員が認知症サポーターキャラバン等の講習を受け、認知症の方についての理解を地域の人々に向けて活かしていけるように取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での意見をサービス向上に活かすために取り組んでいる。 | 事業所の取り組みを伝え参加者より地域行事の情報を得たり質問、助言等を貰い運営に反映させている。定期的に開催する事が出来なかった。 | 定期的な開催を期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 月に一度、入退所情報を市に報告し、グループホームの実情など担当者と話をし、事故などがあれば速やかに市に報告書を提出している。分からないことなど相談している。 | 事業所の実情を伝え理解して貰いながら協力して取り組んでいる。介護保険制度等わからないことは何でも相談している。市主催の「認知症キャラバン」の講習に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、夜間帯など転倒のリスクがある利用者様に対しては、夜間のみセンサー対応を行い対応している。今後も施設での身体拘束防止に努めていきたい。 | 介護の仕事が初めての職員もあり、管理者はどういう事が身体拘束になるのかをその都度伝え身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉使いにも気を付けている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を今後も増やしてい虐待が見過ごされないように努めていく。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修や勉強会等で制度を学ぶ機会を増やし、権利擁護に関する制度の理解と活用についての理解を深めていけるように努めていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | サービス利用開始後もご家族様には担当が不安や疑問点に対応し、理解と納得を得るように努めている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 市からの相談員を定期的に受け入れており、利用者様との話の中で思いを聞き取り、要望等を管理者・職員がそれを運営に反映させるように努めている。 | 面会時にゆっくり意見や要望等を聞く様になっている。定期的に介護相談員の受け入れを行い利用者から思いを聞く場を設けている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に全体会議を開いたり、その都度、話し合いや相談を行い職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 | ユニット会議やリーダー会議、全体会議等で職員の意見を聞く機会を設けている。薬の取り扱いについて薬局の薬剤師と勉強会をする等、職員の理解を深める機会を設け不安の解消に繋げた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員個々の努力や実績、勤務状況等を評価し目標を持って働ける職場作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々の目標に合った研修を受ける機会を設けながら職員育成に取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修へ参加し、同業者との意見交換を通じて、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所決定時に、本人が困っていること不安なことなど、本人・家族等より情報を集め、入居時には安心していただけるような関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族等の思いを大切にしながら、困っていることや不安なことなど少しでも軽減できるように対応し、家族等との信頼関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービスを導入する段階で、必要と思われるサービスが考えられれば、提案や助言をおこなっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は利用者様との信頼関係を築きするために、共に支えあうという思いを持つよう取り組んでいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人と家族との絆を大切にするため、担当職員は月に一度の近況報告の手紙や、必要時は家族の協力を得て共に支えあえる関係を築けるように取り組んでいる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や知人の方が面会に来られたり、馴染みの方の話題を提供したりしながら支援に努めている。 | 利用者の大切にしてきた場所や人との関係を知り、馴染みの寺や神社、理容室、墓参り等に出かける支援をしている。知り合いの協力を得て念願だった寺の彫刻物を見せて貰った人もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係やその場の雰囲気や大事にし、一人ひとりが楽しめる時間を持つよう取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了しても家族様より相談があれば、支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの希望や意向を聞きながら、それが実現できるように、職員間で取り組み共有できるように努めている。 | 生活歴や家族から情報を得たり、一人ひとりの暮らし方の希望を確認し実現出来る様に取り組んでいる。思いを伝えられない人にも情報を得て検討し支援する事に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 基本情報に記載されている生活歴やサービス利用の経過等を確認したり、本人や家族より情報を得ながら、生活歴やサービス利用の経過等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の暮らしの現状の把握の為、一日の過ごし方、心身状態、有する力等の様子を記録に残し、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族・関係者・職員との話し合いを通じて、現状の中で必要な介護計画を作成している。 | 利用者のこれまでの習慣や現在の思いを把握して計画を作成している。日々職員間で情報交換を行い状態に合わせて家族や関係者と話し合い支援している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子やケアの様子を記録に残し、一人ひとりに合った個別ケアを実践できるように取り組んでいる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、カンファレンス等の話し合いの場を通じて柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣に住むボランティアとの交流や理容店・喫茶店への外出等、暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 定期的受診や必要時の受診等、連絡を密にとりながら適切な医療を受けられるように支援している。 | 利用前に利用者や家族と話し合い、協力医と情報共有を行い適切な医療を受けられるように支援している。専門医には継続して受診している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者の状態に変化がみられれば、速やかに看護師に報告し、その場での応急処置や相談の上、必要なら受診や看護を受けられるように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時の情報提供と病院関係者との情報交換や相談を密に取り合い、病院関係者との関係作りを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合は、今後の方針を速やかに家族・関係者等と相談し、今後必要と思われる適切なサービスについて助言・提案していけるよう取り組んでいる。 | 利用開始時、利用者や家族、関係者に事業所としての方針を伝え対応している。食事が食べられなくなる等、状態が変わった時は協力医と話し合い対応している。緊急時は病院へと家族に説明している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急法に関しては、消防署に行き講習を受けている。今後全職員が講習を受けるように取り組んでいく。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て、定期的な避難訓練を実施している。問題点、課題等があれば次回に生かせるよう取り組んでいる。 | 年2回、業者立ち合いで消火器などの点検や利用者と夜間想定避難訓練を実施している。1階ユニット2階ユニットそれぞれに避難場所の確認を行っている。 | さらに日々の意識付けや地域の協力が得られるように取り組まれることを期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの言動には意味があると頭に入れ、否定しないような、声かけ、見守りを心がけている。 | 人生の先輩として目線を合わせて声かけをしている。トイレ使用時はドアをきちんと閉めプライバシーに気を付けている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の意思を尊重した声かけをおこなったり、傾聴する姿勢で本人が自己決定できるような働きかけを心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の思いや、意思決定を尊重しながら、その方の本来の生活ペースを大切にした支援がおこなえるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一人ひとりが自分らしい身だしなみやおしゃれができるような、配慮や声かけができるように努めている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | おかずをお皿に盛っていただいたり、テーブル拭きや食器洗い・拭き等を職員と一緒にこなしている。 | 主食や汁物は事業所で作り副食は外部の配食サービスを利用している。食べたい物を聞き一緒に鍋料理をする等楽しめる場面を工夫し、盛り付けやテーブル拭き等の出来る事はして貰っている。 | 検食などの工夫を望みます。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスや食事量など記録に残し、ご飯をおにぎりに変えてみたり、一人ひとりの状態に合わせた対応ができるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 本人に出来るところまでは自分で口腔ケアをおこなっていただきながら、出来ないところは職員が手伝い、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄のパターンを記録に残しながら把握し、失敗やおむつの使用を減らせるように取り組んでいる。 | 排泄パターンを把握し声かけのタイミング等を職員間で話し合い支援している。昼夜頻繁にトイレに行く人や誘導の困難な人の原因を探り本人の気持ちを理解して対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりの排泄パターンを知り、出来るだけ負担なくトイレで自然排便がおこなえるように支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの入浴にたいする希望を考慮しながら安全に安心して入浴できるように個々にそった支援をしている。時間帯も考慮している。 | 一人ひとりの入浴の習慣やこだわりを把握して対応している。「シャンプーは使わない」「石鹸で背中と指先しか洗わない」「浴槽の中で垢すりをしたい」等一人ひとりの習慣を大切にしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間の安眠に繋がるように、日中の活性化に努めているが、状況に合わせて日中でも眠そうにされている方には休んでいただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 各個人のファイルに薬情報を載せ、薬剤師より薬についての相談・助言、勉強会を行うなど、薬への認識を深めていくように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の生活歴を大切に、要望等に耳を傾けながら役割や楽しみごとを共にみつけていけるような支援がおこなえるように取り組んでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 散歩や外出に誘ったり、季節感を感じてもらえるような外出支援ができるように支援している。 | 散歩や、紅葉ドライブ、公園で梅の花を見たり道の駅でお茶を飲んだり、外出の機会を設けている。家族や地域の人々の協力を得ながら外出支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭の管理は基本的には職員が行っており、本人が欲しいもの、必要な物等があるときには対応している。本人がお金を所持したいとの要望がある方にたいしては、お金を所持していただいている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠方の家族からの電話を本人へ取次ぎお話をしたり、本人希望での家族への電話等の支援をおこなっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節感のあるものを飾ったり、温度調整や光の加減など居心地よく過ごせるように配慮しながら、一人ひとりが安心して生活できる場になるように努めている。 | 自宅と同じ様な生活感や季節感を出す様に花や壁画、装飾に配慮している。所々に椅子やソファを置き週刊誌や新聞を見たり外を眺める等、好きな所で過ごせる工夫をしている。転倒防止の為安全面に配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間では、利用者同士、職員との交流など、思い思いの時間を過ごしていただけるように努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 安全面に配慮しながら、以前の居室空間をできるだけ維持できるような工夫を心がけている。また家族の写真等、本人が馴染みのあるものを飾るなどしている。 | アルバムや遺影、髭そり、パイプハンガー、週刊誌、筆筒等馴染みの物を置き一人ひとりに合わせ心地よく過ごせる様に工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりが出来ることを把握し、安全に自立した日常生活が送れるような環境づくりを心がけている。 | | |